

2011年度 愛知大学・後援会・同窓会奨励賞授与式

(後援会課外活動奨励賞、同窓会奨励賞、公務員試験合格者奨励賞)



日時 | 2012年3月3日(土)11:00~12:30

場所 | 車道校舎 本館3階 コンベンションホール

プログラム

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 一. 開式 | 一. 受賞者代表謝辞 |
| 一. 挨拶 愛知大学 学長 佐藤 元彦 | 公務員試験合格者奨励賞受賞者 代表 |
| 一. 愛知大学後援会課外活動奨励賞 | 課外活動奨励賞受賞者 代表 |
| 選考結果報告 愛知大学 学生部委員長 有薊 正一郎 | 同窓会奨励賞受賞者 代表 |
| 奨励賞授与 | 一. 閉式 |
| 一. 愛知大学同窓会奨励賞 | |
| 選考結果報告 愛知大学同窓会 広報委員長 堀田 久富 | |
| 奨励賞授与 | |
| 一. 愛知大学公務員試験合格者奨励賞 | |
| 試験結果報告 愛知大学 就職委員長 樋野 芳雄 | |
| 奨励賞授与 | |

2011年度 同窓会奨励賞受賞者一覧

●同窓会創立60周年特別奨励賞

個人

まきの よしろう
牧野 由朗氏

1954年(昭和29年)文学部社会学科卒業／愛知大学名誉教授(元学長)



愛知大学の隆昌発展、東亜同文書院大学のよき伝統の継承や同窓会との関係強化に尽力

◆推薦趣旨◆

愛知大学の隆昌発展に大いに寄与され、特に東亜同文書院大学の伝統を継承する愛知大学として、同書院の記念基金の発足にあたっては多大なご尽力をいただいた。これを契機に渥友会 愛知大学 霞山会三者の関係は緊密の度を深め今日に至る。

また大学と同窓会の良き関係を創るべく同窓会長の大学理事就任を制定、大学と同窓会、渥友会による創立記念ゴルフ大会の開催に寄与されるなど、その功績は枚挙に遑がない。

◇略歴◇ 1926年豊橋市生まれ／1947年秋田鉱専卒業後、高等学校教諭／1952年愛知大学(社会学科)編入学、卒業後愛知大学文学部副手・助手を経て、1959年同大学女子短大講師、1961年同文学部講師・助教授を経て、1971年教授、1972年短大部長(兼務)、1981年文学部長(同大学理事)、国際交流委員長、中国語学術交流委員長(兼務)、1988年愛知大学理事・学長(1992年まで)、1997年愛知大学を定年により退職・同大学名誉教授／北京第二外国語学院名誉教授／【所属学会 団体等】(役職経験のみに限る)日本社会学会、関西社会学会、村落社会研究学会、日中社会学会、国立民族博物館、日本私立大学連盟、私学研修福祉会、日本私立大学団体連合(教育改革委員)、霞山会 等々／【著作目録】志摩漁村の研究、豊川用水と渥美農村、地域の社会学等々、著書論文など多数(詳細については拙著『社会学と私の五〇年』参照されたい)

とのおか あきこ
殿岡 晟子氏

愛知大学創設者 本間喜一先生の長女



愛知大学創設期の伝承

◆推薦趣旨◆

愛知大学の創設者本間喜一先生のご長女で、大学創設当時、大学公館に本間先生と二人で起居しており、父本間先生のごく身近にあって先生ご自身の眩きや他の創設関係者とのやり取りを身近に感得してこられた。その後、本間先生が豊橋を離れて東京に戻られたのちも、こよなく愛知大学生を愛しておられた本間先生の回顧談をつぶさに聞いてこられた。さらに周辺の資料をあまざ整理保存してこられた。

いま同窓会が創立60周年記念総会を迎え「大学史」のより正確な認識は、未来へ着実な一歩を踏み出すに不可欠の要件である。殿岡氏のこれまでの講演、談話、提供資料は先の実生活のなかでの見聞と体験にもとづく貴重なもので、同窓生の母校史認識に血を通わせるものである。

◇略歴◇ 1933年(昭和8年)東京都生まれ／(社)日本易学連合会参事 認定鑑定士、東明総研(株)名誉鑑定士・講師、東洋運動会副会長／日本赤十字(吉祥寺献血ルーム)ボランティアとして20年間継続して手相鑑定中です。心に太陽をくちびるに笑みを、がモットーです。

●優秀奨励賞

個人

みた よしのぶ
三田 良信氏

1946年(昭和21年)東亜同文書院大学第42期卒業資格付与



東亜同文書院大学史研究の深化及び中国語、漢字研究と教育

◆推薦趣旨◆

明治を代表する書家で、清末に上海に滞在した金沢市常福寺14世住職北方心泉が東亜同文書院の設立に奔走したことを明らかにし、東亜同文書院院歌の作詞者で学生から慕われていた大村欣一教授の蔵書、遺墨を調査、研究し東亜同文書院大学史研究を深めた。

(財)日本漢字能力検定協会日本語教育研究所研究員として、全国各地で漢字指導者の育成を図り、石川漢字友の会相談役として北國新聞文化センターや生涯学習の場で漢字学習の拡大につとめ、各地の碑文の解説にもあたった。文化庁文化部国語課、国語辞典、漢和辞典発行の各社に意見を提出して正しい言葉の使用の普及を図った。

金沢大学、北陸大学などで中国語の教授にあたる一方、愛知大学『中日大辞典』の表記について意見を提出しその評価を高めることに貢献した。

◇略歴◇ 1922年2月14日金沢市生まれ／東亜同文書院大学入学(42期)、学部2年在学中応募／1946年卒業資格付与／1981年4月より金沢大学教養部中国語講師(12年間)／1987年4月より北陸大学外国語学部中国語講師(12年間)／(財)日本漢字能力検定1級合格 日本語教育研究所研究員となり漢字検定協会の全国講師を13年間担当／北國新聞文化センターにて「碑文を読む」講座担当／東亜同文書院記念報 NO. 18、19に執筆掲載

たに とうすけ
谷 藤助氏

1950年(昭和25年)旧制法経学部経済科卒業



同窓会における寮歌普及活動の草分け

◆推薦趣旨◆

昭和61年6月、第12代愛知大学同窓会東京支部支部長に就任、愛知大学同窓会日本寮歌祭実行委員会委員長として、61年10月の第2回千葉寮歌祭、本間喜一元学長念願の62年10月開催の第27回日本寮歌祭(於・日比谷公会堂)の初参加に尽力され寮歌祭参加の礎を築かれ、これまで日本寮歌祭に毎年参加し、愛知大学予科寮歌「月影砕くる…」の普及に尽力し、愛知大学の名声を高めるのに多大に貢献している。

その後、東京支部相談役として同窓会の活動に積極的に参加すると共に、愛知大学東亜同文書院大学記念センターの主催する展示会、シンポジウムの講師として参加、また、東京支部の主催する「語りべの会」(アジアの中の私)の歴史の証言者として講師として活動するなど、その活動と貢献はきわめて顕著である。

◇略歴◇ 1945年(昭和20年)満洲国立大学哈爾濱学院卒業／1947年(昭和22年)愛知大学予科修了／1950年(昭和25年)愛知大学法経学部経済科卒業／同年、司法試験合格／1981年(昭和56年)最高検察庁検事／1982年(昭和57年)山形地方検察庁検事正／1996年(平成8年)勲二等瑞宝章叙勲

おかわ ひろみ
大川 博美氏

1953年(昭和28年)短期大学部法経科卒業



社会貢献活動を通じて母校の名声を高める

◆ 推薦趣旨 ◆

人格・識見ともに優れた方で、社会貢献による表彰実績もあり、母校に対しても多大なご貢献をされている。

【主な受賞歴 国・業界団体からの表彰】

- 1975年(昭和50年) 8月 中小企業庁長官表彰(全国優良家具仕入大会優秀賞)
- 1995年(平成7年) 11月 岡崎税務署長感謝状(税務行政発展功労)
- 1996年(平成8年) 11月 社会保険庁長官表彰(社会保険事業功労)
- 2000年(平成12年) 4月 科学技術庁長官賞(創意工夫功労)
- 2004年(平成16年) 11月 日本商工会議所会頭感謝状(商工会議所発展功労)
- 2005年(平成17年) 11月 旭日中綬章(商工会議所会頭10年6ヶ月・社会貢献に寄与)
- 2011年(平成23年) 8月 紺綬褒章(岡崎市教育委員会・豊田市教育委員会へ私財を寄付) など

◇ 略歴 ◇ 1953年愛知大学短期大学部法経科卒業/同年、岡崎市立岩津中学校教員/1955年豊田市立高橋中学校教員/1958年豊田市立崇化館中学校教員/1960年フジセット工業(株)勤務/1967年金属家具販売富士スチールを個人創業、富士スチール(株)代表取締役社長/1983年(株)西三河ニューテレビ放送(MICS)代表取締役社長/1987年(株)オリバー代表取締役社長(富士スチール(株)を改称)/1988年オリバーファーム・ニュージューランド代表取締役社長/1994年オリバーアメリカインターナショナル代表取締役社長/2002年ミクスネットワーク(株)代表取締役社長((株)西三河ニューテレビ放送を改称)/1994年岡崎商工会議所会頭、岡崎市総合計画審議会委員、2000年(社)国際家具産業振興会理事、2004年(社)日本経済団体連合会評議員などを勤める

おかやす たつお
岡安 辰雄氏

1957年(昭和32年)法経学部経済学科卒業



第52回 CBC クラブ文化賞(くちなし章)受賞などにおける演劇評論家としての活躍

◆ 推薦趣旨 ◆

50余年にわたり舞台芸術を評論し、文章の力で、舞台人を、育て、支え、見守ってこられた。豊富な知識で、関係者からも厚い信頼を得る第一人者として、2011年、東海地方において一芸一能に徹し社会的に貴重な存在となっている方を表彰するCBCクラブ文化賞(くちなし章)を受賞。現在、日本演劇協会に所属するフリー記者で、主に演劇や舞踊芸術評論のリーダー的存在であり、舞台芸術の育成にも大きな貢献を続けている。2011年4月までに中日新聞にて朝刊「忘れ得ぬ人々」夕刊「あんな話こんな話」を連載した。

◇ 略歴 ◇ 1957年愛知大学法経学部経済学科卒業/同年、名古屋タイムズ社入社 報道部長、文化部長、編集局次長を経て中日新聞に移籍/2010年まで中日新聞名古屋本社放送芸能部に在籍/半世紀にわたって芸能記者として活動。現在、日本演劇協会評論部のほか名古屋演劇ペンクラブ理事として名古屋市民芸術祭の審査員などを担当/北條秀司監修『西川鯉三郎』『御園座百年史』執筆/2011年CBCクラブ文化賞(くちなし章)受賞

かとう たかし
加藤 嵩士氏

経済学部4年次生



東海学生ハンドボール連盟優秀選手賞の受賞、実業団強豪チームの選手としての活躍

◆ 推薦趣旨 ◆

ハンドボール部にて1年次生からレギュラーで活躍。東海学生リーグ戦では、1年次～3年次生までさまざまなタイトルを獲得し、東海学生ハンドボール連盟優秀選手賞なども受賞している。4年次生の時には、愛知大学ハンドボール部の主将として、リーダーシップを発揮した。3年次生の時から、日本ハンドボール協会ジュニアアカデミー強化選手と日本ハンドボール協会年代別強化選手に指定され、本年度まで継続された。11月消防士の内定が出ていたが、愛大が全国大学選手権への出場がなくなったため、日本ハンドボールリーグ強豪チーム大同特殊鋼(フェニックス)に登録。第36回日本リーグ参戦にて、すべての試合にスタメン出場。2011年11月対湧永製薬戦で初得点、12月第63回全日本総合ハンドボール選手権大会出場準優勝(教育テレビ放映)など実績を残している。

◇ 略歴 ◇ 1989年10月愛知県生まれ 愛知高校出身/2008年愛知大学経済学部経済学科入学

● 奨励賞

個人

かのう かづま
加納 克麻氏

2011年(平成23年)経済学部経済学科卒業



愛大魂を鼓舞する応援を送り続ける卒業生

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学応援団は、平成23年に創団60年を迎えたが、今を去る5年前、平成18年には15名を数えた団員も、加納克麻氏が59代団長就任時は7名と半数ほどとなり、本学のスポーツ応援活動に支障をきたす恐れがあるとの危機感から、23年9月まで卒業を延期することを決心、第60代団長に就任した。就任時は5名となった団員を率い、伝統ある演舞の継承、3.11災害の募金など奉仕活動を率先して行い、将に団訓「義務・責任・誇り・礼儀・節度・闘志」を身をもって後輩に伝授し、卒業後も時間の許す限り4名の団員と共に、愛大魂を鼓舞する応援を送り続け、活躍する選手らの大きな励ましとなっている。

◇ 略歴 ◇ 2011年愛知大学経済学部経済学科卒業

やまね ひろふみ
山根 啓文氏 | 2011年(平成23年)経営学部経営学科卒業



在学中ダンスサークル BPM として活躍し、卒業後も全国各地の大会で好成績を収める

◆ 推薦趣旨 ◆

大学入学と同時にダンスを始め、奥深さ・無限の可能性に魅力を感じ、精力的に全国各地に足を運ぶ。2011年には全国の大学生の大会で準優勝するなど、団体としても個人としても数々の受賞歴を持つ。現在、地元福井県で会社員として勤めながらもダンスのインストラクターとして活動中。授業にダンスが必修化される中、教師への指導も積極的に行っている。

【主な成績】

2010年 BUZZ STYLE 中部予選 優勝
2010年 DANCE@LIVE RIZE SIDE 中部予選 優勝
2011年 BUZZ STYLE FINAL 準優勝
2011年 DANCE@LIVE RIZE SIDE FINALIST (以上、愛知大学学生として出場)
2011年 裏天下一舞踏会 フリースタイルソロバトル 準優勝 など

◇ 略歴 ◇ 1988年福井県福井市出身／2007年福井県立福井商業高等学校卒業／2011年愛知大学経営学部経営学科卒業

すずき しょうじ
鈴木 祥司氏 | 法学部法学科4年次生



名古屋校舎体育会柔道部の発展に寄与

◆ 推薦趣旨 ◆

大学入学当初から真摯に勉学と柔道に励み、真面目にコツコツと本学の信条である「文武両道」に取り組む姿勢は他の学生の模範となるものである。特にその中でも柔道部の稽古においては自己研鑽のための努力を惜しまず、常に周囲が目を見張る程の躍動的なものであり、大会結果に示したとおりの成果を収めた。併せて、主将としての役割もこなし、常に高い目標に向かって自己研鑽に励む姿勢は、同級生をはじめ後輩からも絶大な信頼を集めた。

【主な成績】

2009年9月 東海学生柔道体重別選手権大会 60kg 級 優勝 (2年次)
2010年12月 湊谷杯全国学生柔道体重別選手権大会 66kg 級 優勝 (3年次)
2011年7月 国民体育大会愛知県予選 73kg 級 準優勝 (4年次)
2011年9月 東海学生柔道体重別選手権大会 66kg 級 優勝 (4年次)
2011年10月 全日本学生柔道体重別選手権大会 66kg 級 ベスト16 など

◇ 略歴 ◇ 2008年愛知大学法学部法学科入学

かわい しょうへい
川合 翔平氏 | 経営学部経営学科4年次生



体育会ゴルフ部における活躍

◆ 推薦趣旨 ◆

2011年6月28日～30日名古屋ゴルフ倶楽部で開催された『第38回中部日本放送杯争奪中部学生ゴルフマッチプレー選手権競技』に於いて見事優勝を果たした。

【主な成績】

2010年8月『第40回中部学生ゴルフ選手権』7位
2010年11月『第57回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権』50位
2011年6月『第38回中部日本放送杯マッチプレー選手権』優勝 など

◇ 略歴 ◇ 2008年愛知大学経営学部経営学科入学

● 奨励賞

団 体

愛知大学法学部2011年模擬裁判プロジェクトチーム 代表：伊藤 友哉氏



学生主体の模擬裁判による地域貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学法学部は、2011年12月17日(土)に車道校舎で市民を対象とした模擬裁判を開催した。これは、2009年5月にスタートした裁判員制度を市民の方々により深く理解していただくことを目的として2005年度から開催しているもので、今回が7回目である。模擬裁判を企画・運営したのは、「法律学特殊講義6・7」(担当：広瀬裕樹教授・小島透教授・小林真紀准教授)の受講生を中心とした模擬裁判プロジェクトチーム(3～5年次生・57名)である。

今回は「あなたはこの裁判で、何を思い、何を感じますか?」をテーマに、来場者により裁判について考えてもらえるように、イメージのしやすい正当防衛の事案を取り上げ、「被告人の行為に相当性があるか?」を争点に議論した。

この模擬裁判の試みの特色は、「学生主体の企画・運営」と「地域貢献」とにある。法学部教育と大学の地域貢献とをドッキングさせた愛知大学法学部ならではの特色ある模擬裁判であり、一般の方々の裁判への関心を高めることにつながった。

経営学部 むらまつゆきひろ 村松幸廣ゼミ



ゼミ活動の継続性とその活動内容の充実発展性

◆ 推薦趣旨 ◆

流通マーケティングコースに学ぶ「村松ゼミ」は、生産と消費をつなぐ流通や、市場動向への企業の適応活動であるマーケティングを学び、コンビニやデパートの戦略、市場調査や商品開発、広告や販売促進まで広く学んでいる。ゼミ活動を通して、幅広い人間力と就活力を養成し、就職にも大きな成果を上げている。現在24期生のゼミ活動中、まとめの冊子もつくり（今年度分は作製中）、村松ゼミ同窓会もあり、OB・OGの後輩指導もされて、理想的なゼミ活動である。

3年次生のテーマは「マーケティング及び消費者行動に関する基礎知識の習得と研究課題の探究」、4年次生のテーマは「各自の研究テーマの資料収集と分析及び卒論プレゼンテーション」で、必修の外語（英語）講読も3年次生と4年次生が顔を合わせし、仲間意識も醸成されお互いが刺激され切磋琢磨している。7月には、企業訪問調査を実施。対象企業は東海地区に限らず、事前に企業状況を調べて訪問することで、中身の濃い調査・研究が出来ている。また、外部のコンテストにも挑戦し、日刊工業新聞社が行っているベンチャービジネスコンテストにも参加中。

ゴルフ部



中部学生ゴルフ秋季対抗戦（1部）などで好成績を収める

◆ 推薦趣旨 ◆

2011年5月17日、18日にセントクリークゴルフクラブにて開催された『中部学生ゴルフ春季学校対抗戦』1部校に於いて準優勝し、全国各地の学校対抗戦を勝ち抜いた大学に出場資格が与えられる大会である第47回『全国大学ゴルフ対抗戦』（日時6月15日、16日 場所：オークウッドゴルフクラブ）への出場を果たす。また、2011年9月13日、14日に津カントリー倶楽部にて開催された『中部学生ゴルフ秋季学校対抗戦』1部校に於いて優勝を果たした。また、同年10月25日、26日千葉カントリークラブで開催された『信夫杯争奪日本学生ゴルフ対抗戦』にも出場した。

個人戦に於いても、中部学生ゴルフ選手権の予選で好成績を収めた4名が『日本学生ゴルフ選手権』に出場を果たすなど、団体、個人共にその活躍は顕著なものがある。

吹奏楽団



地域と密着した演奏により愛知大学 PR に貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

吹奏楽団は毎年卒業式、入学式において大学側より演奏を依頼しており、本学の行事に大きく貢献している。さらに大学内だけでなく、豊橋まつりや病院などからの依頼演奏、毎年豊橋勤労福祉会館にて開催される「定期演奏会」など、地域に密着した活動も行っており、地域貢献という点においても愛知大学の名を広くPRすることに一役買っていると言える。こういった活動は運動部の公式大会と違い、成績や順位などが出ないため目に見えてはわかりにくいですが、他の部活と比べてもその活躍は大いに評価に値すると言える。

● 資格試験奨励賞

新司法試験



寶田 絵美

2010年法科大学院法務研究科修了



森田 亮介

2010年法科大学院法務研究科修了



細川 俊輔

2011年法科大学院法務研究科修了



藤澤 昌隆

2011年法科大学院法務研究科修了



西川 満喜

2011年法科大学院法務研究科修了



上野 彩也子

2011年法科大学院法務研究科修了



中村 紘也

2011年法科大学院法務研究科修了



久野 由詠

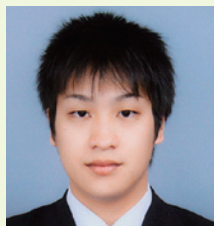
2011年法科大学院法務研究科修了

公認会計士試験



成瀬 彩加

2010年会計大学院会計研究科修了



小野 亮介

2010年経営学部会計ファイナンス学科卒業

税理士試験



丹羽 亮二

2007年大学院経営学研究科修了



武田 侑也

2009年会計大学院会計研究科修了



成富 康裕

2010年会計大学院会計研究科修了



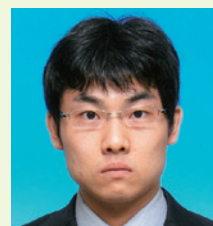
磯貝 常太

2010年会計大学院会計研究科修了



山浦 康宏

2011年会計大学院会計研究科修了



前田 幸作

2011年会計大学院会計研究科修了

愛知大学同窓会奨励賞授与取扱要領

目 的

この取扱要領は、本会会員（滬友会、推薦校友を含む。）並びに愛知大学関係者（教職員、在学生等）が社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野に於いて活躍し、または、これらの分野で活躍することが期待される個人又は団体に対し、愛知大学同窓会（以下「同窓会」という。）が「同窓会奨励賞」を授与するために定める。

表 彰

表彰は、会員から推薦または申請のあった個人及び団体に対し、選考の結果、個人にあっては表彰状並びに副賞（記念品）、団体にあっては表彰状並びに副賞（奨励金）を授与する。

推 薦

候補者の推薦（自薦を含む。）は、毎年12月20日までに社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野で活躍のあった個人又は団体について、活躍の内容をまとめた推薦書（800字程度）を同窓会会長宛に提出する。ただし、叙勲及び功労賞等の受賞者は対象から除くものとする。

申 請

資格試験奨励賞は、毎年12月20日までに、会員から同窓会長宛に申請書および合格したことを証明する書類（写し）を提出する。

選 考

会員から推薦のあった個人及び団体について、同窓会広報委員会で選考し、同窓会常任理事会で決定する。

表彰の種類

表彰の種類は、個人、団体とも次のとおりとする。

A 最優秀奨励賞（全国レベルでの活躍）

個人…記念品 10万円相当 団体…奨励金 10万円

B 優秀奨励賞（地域レベルでの活躍）

個人…記念品 5万円相当 団体…奨励金 5万円

C 奨励賞（一般的な活躍）

個人…記念品 3万円相当 団体…奨励金 3万円

D 資格試験奨励賞

愛知大学（大学院、学部、短大）に在学中又は卒業した者で以下の試験に合格した者。

【対象資格試験】

1 新司法試験 2 公認会計士試験 3 弁理士試験 4 国家公務員第Ⅰ種試験 5 司法書士試験 6 税理士試験

個人…記念品3万円相当

附則(制定)

この取扱要領は、2003年1月18日から施行する。

この改正取扱要領は、2006年5月13日より施行する。